



大町商店街にある、キッズスペース併設の  
コワーキングスペース「MARUWWAニコメ」。  
そこに集うママや働く人々が自分たちの  
目線で見つけた、これから活躍しそうな  
ヒト・モノ・コトなど身のまわりの新しい芽。  
それが「ニコメ(二個目)のメ(目・芽)」です。  
MARUWWAニコメ  
〒017-0841 大館市宇大町9  
TEL:0186-59-5305  
https://maruwwa.com/nicome/



## わたし目線でみつけたこの街の新しい芽 Vol.10

### 今月のメダマ

### 輝くあの人にインタビュー①

## 木を通して子どもたちの成長に寄り添いたい

『アミュージングサポートあ☆そ☆ふ』  
代表 **河田 美智子**さん



「木育に取組み始めたきっかけは、公立幼稚園に勤務している15年ほど前にかかのぼります。子どもたち自らが遊びを作り出せるよう、遊具や材料を設定し、一人ひとりと向き合い試行錯誤する毎日でした。自然に囲まれていた園の子どもたちは、園庭や近隣の野山に出かけ、生き物探しに夢中になり、草花・木の枝を拾い集めては制作を楽しみました。自然の中でキラキラ輝く子どもたちの姿をみて、生きる力を育てている！と実感したものです」そう話してくれたのは、『アミュージングサポートあ☆そ☆ふ』代表、河田美智子

さんです。

河田さんは幼稚園教諭として市内の公立幼稚園に勤務した後、教育委員会生涯学習課に所属。文部科学省の推進する『家庭教育推進事業』の担当となりました。これは、家族の触れ合いを通して、安心して子育てや家庭教育を行うよう支援する取り組みです。家庭教育推進チームと連携して、子育ての講座や、親子の絆を深めるように『木のおもちゃ』を取り入れました。平成28年に退職した後は、子育てを終えた仲間と子育て支援団体『アミュージングサポートあ☆そ☆ふ』を立ち上げました。設立当初から市内の公民館や児童会館などで、子どもたちが木の手作りおもちゃを作ったり木育玩具で遊ぶ「移動木育ひろば」を開催。また、木を中心としたおもちゃ広場や世代間交流ひろばを開き、子どもや子育て世代に木の良さや、環境の大切さを伝える活動を続けています。



「木育の活動は、多くの方々の賛同と協力のもとで開催できていると実感しています。自然の恵みが紡いでくれたつながりが、子どもたちの豊かな心の育みとなります。これからも木育を通して、子ども達に豊かな想像力や周りに優しくする気づきかいが育まれることを願っています。また、大館は秋田杉の宝庫。生まれ育ったふるさとの良さを感じ取ってほしいです」と話してくれました。

### 輝くあの人にインタビュー②

## 経験生かしてデザインで保育を応援したい

つるた **鶴田 はるか**さん



東京都出身の鶴田はるかさんは保育に特化したデザイナーとして、保育園のパンフレットやリーフレット、ホームページの制作などを行っています。保育園のコンサルタント会社での勤務を経て2019年春に独立。同年10月に夫の仕事の関係で大館に移住しました。

子どもの頃から絵を描くことが好きだったという鶴田さんは、大学で中・高の美術科の教員免許を取得。その後会社員として、保育士採用のためのパンフレットや、保護者向けのホームページのデザインなどの制作に携わりました。営業のために北は北海道から南は鹿児島まで、全国約200の保育園を訪問。それぞれの保育園に考え方や取り組みの違いがあることを実感したそうです。「一人ひとりに向き合って愛情を注いでいる先生方の姿をみて、自分の得意なデザインで応援したい・役に立ちたいという思いが強くなりました」円滑に仕事を進める上で普段から意識している

ことは、相手へのリスペクトを忘れないこと。お客様から、「お願いしたパンフレットからホームページの問い合わせがあったよ」「分かりやすくまとめてくれてとても役立っている」という報告はもちろん、「あなただから任せたい」と言われた時、とてもやりがいを感じるそうです。昨年11月には長男が誕生。現在はスケジュールに無理のない範囲で仕事を進めているそうです。今後は、「保育専門のデザインをしている自分だからこそその仕事があったい」と話してくれました。



向かって左/「保育士が保育所保育指針を身近に感じるクリアファイルを作ろう」というクラウドファンディングで制作されたもので、鶴田さんはデザインを担当。クリアファイル制作には、当初の目標を遥かに上回る200%を超える支援が寄せられました。

<https://harukatsuruta.com> 検索

### 北鹿ネコつながぎ



佐藤 小鉄くん(大館市)  
取り扱い注意のやんちゃ坊主  
だけど、めんこいです!

### こそだてコラム

### 2021 第2弾

## 思春期の子どもをもつ家族の皆様へ 心と体の変化に親はどう向き合う?

私の性講座のテーマは「産まれてきたこと・生きていくこと」の話ですが、講座の前に学校では県のアンケートを取ることがあります。「男女交際の性的接触について」という項目に対して、中高生は「愛があればOK!」「避妊や性感染症予防していればOK!」という反応が意外に多いのです。知りたいことは「男女の付き合い方」があげられます。

恋をすることは素敵なことです。しかしながら恋は盲目! どんどん親の目が行き届かなくなる思春期(心と体の変化)に親はど

う接したらいいのでしょうか?

心の変化への対応は第1弾でお話した“聴く耳”をもった会話になります。二次性徴は“いのちをつないでいく”体の変化です。月経・射精に戸惑う子どもたちもいます。子どもたちが体の変化を受け止めてその意味を知ること、自分の体を守り行動を考えて未来を見つめて生きて欲しいですね。伝え方がわからない場合は「思春期向けの本」のプレゼントはどうでしょう? 「あなたが大切」という親からのメッセージを添えて!

イラスト: さわたのりこ



【お話ししてくれた人】  
助産院イスキア 菅原光子さん

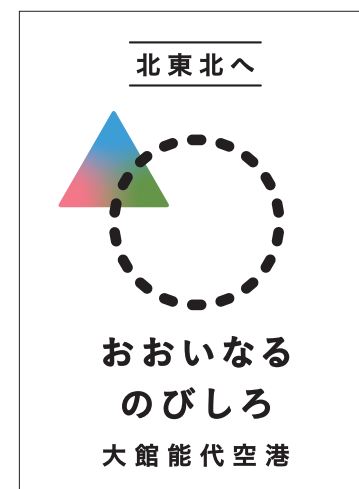
産前産後の支援から性教育まで、幅広く活動しています。

## おいなる のびしろ 大館能代空港

いしころキラリ  
キャンペーンロゴ  
キャッチコピー  
デザインに込めた思い

「伸びしろ」とは、将来的に成長する余地という意味。大館能代空港は、東北地方の他の空港に比べて規模の小さな空港です。多くの観光客が利用する秋田空港や青森空港には、大きさでは太刀打ちできません。けれど、主要な空港の間にあるということは、逆にどこへでも行き来しやすいということです。

観光名所や各県庁所在地はもちろん、まだ見たことのない北東北の魅力に出逢う可能性を秘めた、大いなる伸びしろ。そんな意味を込めて、いしころ合同会社はこのキャッチコピーとロゴマークを制作しました。待ちに待った1日3便への増便も決まり、より便利になった大館能代空港。北東北への旅の起点として期待が膨らみます。



〈クライアント〉  
大館能代空港利用促進協議会  
〈代理店〉  
凸版印刷株式会社 東日本事業部  
〈制作〉  
いしころ合同会社

大館能代空港  
利用促進協議会  
<https://odate-noshiro-airport.com/>

